

❄️ 補聴器の電池も寒い日は苦手です

冬の電池寿命について

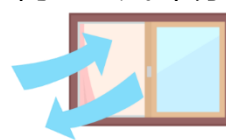
使用を開始した補聴器の空気電池の寿命は概ね 10～20 日間です。

寒い時期は、様々な要因で電池の寿命が短くなることがあります。

予備の電池を用意しておきましょう。

☆暖房器の使用時

冬場は暖房器を使うことが増えます。二酸化炭素を発生する暖房器の場合、二酸化炭素によって、電池の内部を劣化させる原因になります。人が密集している場合も同じです。十分な換気を行いましょう。



☆乾燥に弱い

空気電池は乾燥すると消耗が早くなります。補聴器と一緒に乾燥ケースに入れないようにしましょう。（※人工内耳のバッテリーも同じ）



☆気温にも注意

新しい電池でも気温が低いと、機能しないことがあります。そんな時は、体温などで電池を暖めることで使えるようになる場合があります。（何日か使用した電池は暖めても回復しません。）（※人工内耳のバッテリーも同じ）

電池の残量を確認しましょう

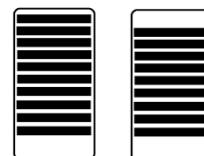
☆電池チェッカー



電池の残量は目に見えません。電池チェッカーを使うことをお勧めします。

目盛りが一つでも減っている時は交換の合図です。（右図）

音が出ていても、1～2時間で切れます。



一目盛り欠けている

※上記以外で電池の消耗が早い時は、補聴器の故障の可能性もあります。

1～2日程度で電池が終わってしまう場合は補聴器店へご相談ください。

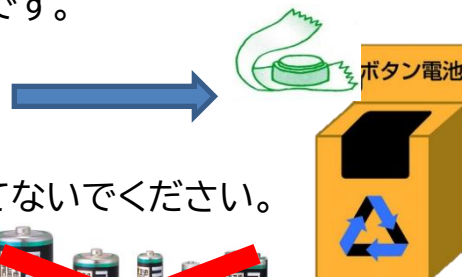
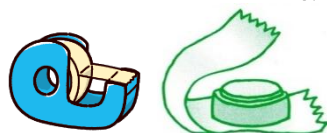
補聴器の電池が終わったとき

○電池交換時に使用済み電池と新しい電池が混ざってしまうことがあります。新しい電池を出す前にしるしを付けておくか、使用済み専用の回収箱と分けるなど工夫してみましょう。



○空気電池はリサイクルができます。
(補聴器の販売店で回収しています。)

※必ず1つずつセロハンテープでぐるりと囲むように巻いてください。
テープを巻かずに複数個、袋や箱などに入れて捨てると、発火するおそれがあります。複数個重ねてセロハンテープで巻くのも危険です。



○乾電池や他のボタン電池などの電池といっしょに捨てないでください。
※聾学校の相談室の入り口にも回収箱があります。
上記の注意を守って入れてください。



ワンポイントアドバイス

☆補聴器の電池は「空気電池」です。100均の電池では電源が入りません。
シールをはがすと、空気穴から酸素が入り、使えるようになります。
はがした直後は電池が作動しないことがあります。少し待ちましょう。

☆シールをはがした空気電池は、使っていなくても消耗します。
就寝時など使わないときは、最初に貼ってあったシールを貼ることで消耗をおさえることができます。セロハンテープなど他のテープは不具合の原因になることがあります。気をつけましょう。

☆人工内耳の予備バッテリーを用意している人もいます。空気電池と同じで使わなくても消耗してしまいます。もしもの時の為に、定期的に予備バッテリーも充電しましょう。

